

日本からドイツまでで14時間、ドイツからアルゼンチンで13時間、乗り替えが約4時間と、約2日のフライトを経て、やっと現地に到着しました。まず驚いたのは、着陸時にみんな拍手をしていたこと。日本との違い、南米の楽しさを感じました。また、パスポート手続きの際に人目を気にせず職場でキスをしていた男女も、印象に残っています。フライト中は不安もありましたが、現地に着く様々なところに目が行って、日本と違う全てが面白くて仕方がありませんでした。

私の家はアルゼンチンのサンタ・フェというところにあり、空港があるブエノスアイレスからは、車で約6時間かかるほど離れているのですが、ファミリーは空港まで迎えに来てくれて、「ようこそ、マオさん」というポスターまで用意してくれていました。更に、マザーに「みんなあなたに早く会いたかったのよ」と言われたこともとても嬉しかったです。そして私は空港で初めて知ったのですが、アルゼンチンの挨拶はチークキスでした。はじめは驚き、やり方もわかりませんでした。挨拶をするときに右頬に一回、チークキスをするのが一般的だそうです。

私の家族は日曜日までブエノスアイレスに住んでいるマザーの叔父の家に滞在しているようで、私も2日間そこで過ごしました。週末は家族でゆっくりと楽しむのがアルゼンチン流で、外食が多く、やはり肉、そして量が多いのが一般的で、朝ごはんはあまり食べません。また、紫外線が強く、日陰はカラッとしています。ほぼエアコンは使わず、暑いですが日本よりも過ごしやすいです。サングラスは必須でしょう。

アルゼンチンの人たちは多くが夜型で、夜ご飯を食べるのは早くても9時過ぎで、寝るのは日付を越すか越さないくらいです。その分、休日に起きるのは早くても8時、遅くて10時頃です。そして日本との違いを感じたのは、必ず昼寝をすることです。2時すぎ頃にお昼ご飯が終わり、そこから2時間ほど昼寝をします。「シエスタ」と呼ばれるお昼寝文化です。

また、個人的にとっても気に入っているのがオレンジジュースです。売っているもの、外食の際に出してくるもの、ほぼ全てに果肉が含まれており、とても味が濃いです。

「アサード」を体験しました。「アサード」とは、アルゼンチンの伝統文化で、たくさんの肉をじっくり焼くことが大切だそうです。特に好きなのは牛肉。めちゃくちゃ美味しいです。食べたあとは驚くほどゆっくり過ごすのが一般的だそうです。マザーの友達の家でアサードをしたのですが、9時頃まで滞在し、終わってこのまま家に帰るのかと思いきや、1時間ほどブエノスアイレスを観光しました。夜10時頃、私が車の中で眠たくなっている時、マザーが「夜はこれからよ」と言ったのが印象的でした。ブエノスアイレスの中心地では特にイベントがあるわけではないですが、スパイダーマンやデッドプールの衣装をしている人たちが多く、その賑やかな雰囲気も南米を感じさせました。また、大きな橋では自分の写真を撮ってもらっている人が多く、日本だったら邪魔と注意される行為も、アルゼンチンでは当たり前のように行われていました。例えば、混んでいる飲食店で食べ終わっても帰らずにお喋りをするのは日本ではあまり良くないことですが、アルゼンチンでは「食べたあともみんなお喋りをするのよ」と、待っている人のことをあまり考えていません。しかし待っている人もまた、食事のあと気が済むまでお喋りをするので、結果あまり悪いことではないです。

礼拝に行きました。話している内容は全く理解できませんでしたが、礼拝自体を経験したことがないので、とても興味深かったです。さらに、大きいショッピングモールを訪れ、それ自体は日本と似ていましたが、地下駐車場にリードのない犬が二匹寝ていたのがとても可愛かったです。また、「ハードロックカフェ」というところでみんなでお昼を食べました。「なにこれえええ」と思いエストニア留学中の友人に共有すると、私が知らないだけで、とても有名なカフェだそうです。本当にかっこよかったです。もう少しで学校が始まります。

